

四季が丘自主防災のあゆみ

四季が丘地区自主防災連絡協議会
議長 岡村 秀豊

1. はじめに

平成16年5月に立ち上げました四季が丘地区自主防災連絡協議会も、今年で早4年目の活動となりました。

この間、平成17年度からは防災のエキスパートである中田敬司先生にも参加していただき、助言を受けながら四季が丘の防災の基幹となりうる会議のメンバーの防災意識及び知識の向上に努めてまいりました。

また、17年度には廿日市市消防本部による普通救命講習の実施を開始し、19年度末には計約350名の受講者となるように計画しております。



1・2丁目防災訓練

18年度の4月には四季が丘の防災マップの初版を自力で作成し、各戸に配布するに至りました。そしてこの年度には、四季が丘地区では初めての防災訓練が1・2丁目町内会により執り行われました。なお、この防災訓練は、平成19年度では各町内で実施する予定であります。

また、平成19年の10月には廿日市市防災行政無線が整備され活用する運びとなり、11月には四季が丘全地区の皆様を対象とした地域防災講演会を開催いたしました。

このように、四季が丘地区自主防災連絡協議会では、地域防災力の向上に努めてまいりましたが、最終目標は、各町内が独自に防災活動ができる体制にすることです。

まだまだ課題は山積みしていますが、確実に歩んできていることは確かです。

ここで、いままでの歩みを紹介するとともに今後の進んでいく方向を述べたいと思います。

2. あゆみ

四季が丘地区自主防災連絡協議会のメンバーは、コミュニティーの役員、町内会長、各町内から選ばれた2名ずつの自主防災委員が主となり、消防団、民生委員、寿会等の参加・協力を得て構成されています。

平成16年度の第1回自主防災連絡協議会では、「災害とはなにか」というところからスタートしました。そして、第2回目の会議では、廿日市市の担当者を交えて廿日市市の防災の取組状況を聞きましたが、その時に「自分達の地域は自分達で守る」という考えがいかにか大切かを実感し、まずは行政に頼らず一から手作りで四季が丘地区の自主防災を成しえようと考え、それが今までの活動の原点となっています。

このようにして四季が丘の自主防災活動はスタートを切りましたが、自主防災活動の計画を立てるにあたって、まずはじめに平成16年12月から平成20年3月までの4年間にわたる**自主防災工程表**を作成し、これに基づいて着実に成果を積み上げて行くことを目標に進めることとしました。

自主防災連絡協議会は年6回の会議を予定し、各会議の前には防災に熱い思いのある役員が集って、会議の議題・内容・進め方を議論・検討し、準備して会議に臨んできました。



一年経過後、自主防災連絡協議会の活動を更に充実させるために、大学で教鞭をとり、防災の専門家、国際救急援助隊のメンバーである中田先生を会議のオブザーバーとして招き、必要に応じて講演をして頂きました。中田先生ご自身も地域の自主防災に関心をもっておられ、お互いに意見交換を重ねて協議会を進めてきました。

しかしながら、自主防災の活動するにあたっては様々な現実的な課題があります。それらを解決するために、メンバーを7つのワーキンググループ（各チーム改善要望事項、緊急連絡網整備、緊急連絡インフラ整備、防災マップ作成、防災倉庫備品整備、普通救命講習、防災イベント）に分け、課題の検討を続けました。このことは、

四季が丘地区自主防災連絡協議会のメンバーが受身ではなく、自らが積極的に参画することで課題に取り組み、防災意識を高めることに役立ったと考えています。

ここで、普通救命講習について説明します。

これは廿日市消防署による3時間の講習で、主に心肺蘇生を目的に心臓マッサージと人工呼吸を行い、今話題のAED（自動体外式細動器）による心臓に電気ショックを与えて心臓の働きを戻すことを試みる実技を行います。この講習を受けることにより、災害時のみならず日常に発生する身近な人命救助活動にも役立つ時がくると考えます。この講習会を地区で積極的に取り入れ普及させている四季が丘は、他に比べ先進的であると自負しております。



平成18年4月に配布しました防災マップは、全てが四季が丘のオリジナルです。

これはコミュニティーの副会長である越山さんが、協議会で内容検討したものを編集・校正して原版を作りあげたものです。このマップは四季が丘全体のもですが、このマップをもとに各町内会が各町内独自の防災マップを自主的に作成することを最終目標としております。

大きな目標のひとつでありました町内ごとの防災訓練は、1・2丁目が検討を重ね、全町内に先駆けて平成18年11月に実施しました。それに続いて4丁目が充実した訓練を平成19年2月に開催しました。これにより四季が丘の自主防災は一気にステップアップをいたしました。

このような歩みの中で、今までに他の三地域から四季が丘の自主防災を学びたいと要請があり、その要請に応えることもできました。



煙体験

3. おわりに

このように四季が丘の自主防災活動は進んでまいりましたが、今年度は全ての各町内が防災訓練することを目標としており、その実現のためには各町内での連絡網、マップ、自主防災組織づくりが必要不可欠であります。こうした防災訓練を実施することで、自主防災活動は飛躍的に前進し、今後への継続へと繋がります。そして、来年度以降は四季が丘全体の総合防災訓練の実施を目標に活動する予定です。一方、自主防災活動と通じて住民のコミュニケーションと地域の和が広がっていくことも期待しております。

最後に、「自分達の地域は自分達で守る」をモットーに住民の力を集約して、災害に強い四季が丘を作り上げることを目指して、今後も四季が丘自主防災連絡協議会の活動を進めていきたいと考えています。

益々の皆様のご理解と積極的な自主防災活動の参加を期待しております。

防災の専門家、国際救急救助隊のメンバーでもある中田先生をお招きして、「地域みんなの防災意識を高めるために」防災講演会が開催されました。約110名の方々にご参加され、地域自主防災について演習を交えた有意義なお話をお聞きました。



地域防災講演会実施報告

とき:平成19年11月3日 ところ:四季が丘小学校体育館

◆内容◆

[1] 四季が丘自主防災連絡協議会の活動報告

[2] 講演「災害とは何か、被災の現状とその対策」

講師：東亜大学医療工学部 准教授 中田敬司 先生

🎤講演：

プロジェクターを使って、「災害とは何か、被災の現状とその対策」についてユーモアを交えて中田先生が講演されました。

🎤伝言ゲーム：

これは5人一組のチームを4つ作り、与えられた情報が5人を経る間にいかに内容が変化していくかを体験するゲームです。災害時に必要なのは正確で迅速な情報です。このゲームを通じて正確に情報を伝えることの難しさを実感できたと思います。

🎤救護訓練：

小学校の舞台から人が落下したという想定で、横たわる人形に対して、次々に与えられる現状や情報に基づいて、迅速な処置・行動をとる訓練です。参加者は4人一組で実演に参加しましたが、我々は刻々と変わる状況に戸惑いながら人を救護する難しさを認識しました。

[3] 廿日市市防災行政無線のしくみ・活用

[4] 救命方法の実演など「救命方法の実演（AEDの使用方法）と火災報知器の設置義務」

講師：廿日市市消防署西分署

講演に参加して、最初は難しいイメージだった自主防災・・・。

中田敬司先生の楽しいオシャベリにあっという間に時間が過ぎてしまいました。

もしもの時の為の準備の大切さを勉強しました。

AEDを使用しての実技を教えてくださいました廿日市消防署の皆さん、こちらもまた、もしもの時の為に一度しっかりと勉強する必要があると思いました。

もっと身近に各々が防災について考えてみる良いチャンスになりました。

(広報部 M&k)